

平成21年度がん診療連携拠点病院機能強化事業
がんプロフェッショナル養成プラン 関東広域多種職がん専門家チーム養成拠点事業



筑波大学附属病院総合がん診療センター 公開シンポジウム

がん医療従事者へのメッセージ

平成22年2月21日(日)

14:00～16:30 (13:30開場)

つくば国際会議場 中ホール 200

対象：がん医療従事者、一般市民

主催：筑波大学附属病院総合がん診療センター

後援：茨城県、茨城県医師会

参加費
無料

あいさつ 山田 信博 (筑波大学学長)

第1部 基調講演 (1時間)

『進むがん医療と「25人称の視点」』

講師 柳田 邦男 (ノンフィクション作家)

休憩 (10分)

第2部 パネルディスカッション (1時間)

『明日世界がかわるとも、ともにリンゴの樹を植える』

座長 赤座 英之 (筑波大学附属病院 総合がん診療センター部長)

兵頭一之介 (筑波大学附属病院 消化器内科 教授)

パネリスト

河合 弘二 (筑波大学附属病院 腎泌尿器外科 病院教授)

小田 竜也 (筑波大学附属病院 消化器外科 講師)

佐藤 豊実 (筑波大学附属病院 婦人周産期科 講師)

金子 真琴 (筑波大学附属病院 看護師)

新井 励 (筑波大学附属病院 臨床心理士)

鈴木 桂子 (がん患者家族)

あいさつ 五十嵐徹也 (筑波大学附属病院院長)

■申し込み方法

どなたでも参加いただけますが、事前申し込みが必要です。
氏名、連絡先をご記入の上、下記宛にメールかFAXでお申し込みください。
定員になり次第、締め切らせていただきます。

■お申し込み・お問い合わせ先

筑波大学附属病院 総合がん診療センター
〒305-8576 つくば市天久保2-1-1
TEL:029-853-8096 / FAX:029-853-3404
E-MAIL:ccc@un.tsukuba.ac.jp

『人間は物語を生きている』



・・・(略)・・・みなさんにとって大事なことだと思
うことは、科学の目と人間を見る目というものの異質
性、それをしっかりと持つ必要があるんじゃないかと。
学問を勉強し、医学部、看護学部あるいは薬学部、さ
まざまな医療系の学問をすすめていくと、どんな専
門的に深くなっていくますね。そして、専門家として
職業人になっていくわけですが、そういったときに抜
け落ちていくものに気づかなければいけないというこ
と、だと思うのです。・・・(略)・・・人間の個別
な人生、つまり人間が生きるっていうことは単に生物
学的に体の新陳代謝や、臓器が健全であったり病気に
なったり、そういう営みとは別に、その人の精神性と
いうのか、精神生活、宗教生活、社会生活、いろんな
ものを込みして、一言でいうと精神的な命といって良
いと思うのですけれど、そういうことが人間が生きてい
くうえでとて

も大事で、そ
れは一般化で
きない、なか
なかできない、

エビデンスなんかで他者に応用できない、そういう問
題を含んでいる。これが人間というのは物語を生きて
いるという真髄ではないかということ語っているわ
けですね。考えてみれば医療行為というのは、ある人
生をたどってきた人、30年であれ50年であれ、80年
であれ、人生という道路をずっと進んできた人、そこに
病気が宿って、そこに病気を中心とした別の職業人生
を歩んできた医療従事者、医療の専門化が交差するわ
けですよ。その交差点で医療という行為、営みが行
なわれるわけです。その営みが行なわれるところで医
療者は自分の専門性を生かすためにいろいろな技術を
動員するわけですね。そしてまた経験を動員するわけ
ですが、そのときに視野に入れなければいけないのは、
その病気や疾患、臓器だけではなくて、その人がその
問題を抱えて、病気を抱えて今まで歩んできた人生が

どういうふうなそこでカーブしようとしているのか、
挫折しようとしているのか、あるいは今後、病気や手
術後の人生を生きようとしているのかということ
まで、ずっと視野に入れるのか入れないのか、そのこ
とはとても重要じゃないかなと思うのです。とりわけ、
がんの末期なんかになった場合には、それが決定的に
重要になってくるわけですが、それを視野に入れてな
いと、自分はある標準的治療法なり、エビデンスのあ
る医療行為なり、それ以外のことはできないという自
己規制をして、それ以上患者と関わらなくなってくる、
とか、あるいは関わってもおもしろくなくなってくる、
興味を持たなくなってくる、こういうことにつながっ
ていく恐れがあります。現実には歴史的にはそういう傾
向が非常に強かったわけですね。・・・(略)・・・今
の医療っていうのは、ものすごく先端的に進んで、技
術的にもまた生物学的に、つまり遺伝子レベルで考え
なきゃいけないようになったりとか、高度なハイテク医療に
対して知識を持たなきゃいけなかったりとか、大変な
んです。ですから、医学部の授業カリキュラムをみ
ますと、覚えなきゃいけない知識が山ほどあって、大
学6年間の間に、あるいは看護学4年間の間に学ばな
ければいけないことが多すぎるといっていいほど、と
ても、ゆとりを持って人間をみるとか、人生を考えると
かそういうことのゆとりがないくらいですね。国家
試験でも知識を問うことが大半となっているし、こう
いう中でどうやったら、よりよき医療者になるかとい
うと、やっぱり、本人、ひとりひとりがもつと、人間
に興味を持つことがとても大事ではないかと思うので
す。わたしは敢えて誤解を恐れずに言うならば、患者
さんに興味を持つ、あるいは死に逝く人に興味を持つ、
死に逝く人に対して強く興味を持つということとはとて
も大切なんじゃないかと思うのです。・・・(略)・・・